

OPACで探せていますか？ おすすめの探し方

図書館で資料を見たり聞いたりするときに必ず使うOPAC、みなさんは使いこなしていますか？

「もちろん」という方、「ちょっとまだ」という方、そして「ぜんぜんだめ」という方にも、おすすめの探し方をご紹介します。どれもカウンターでみなさんからよく質問されるテーマです。

1. ピアノソナタを探したい

検索項目 **タイトル** に、このように入力しましょう。

タイトル	sonatas piano	前方一致
------	---------------	------

ちょっと変わった形ですね。これが重要です。ここで「ピアノソナタ」と入力してしまうと、資料に「ピアノソナタ」と印刷されているものしか探せないのです。例えば外国で出版された楽譜には、カタカナで「ピアノソナタ」とは印刷されていませんね。でもこの形「sonatas piano」と入力すれば、どのように印刷されていても探せます。

まとめると、

		OPACで	
		「sonatas piano」で探すと・・・	「ピアノソナタ」で探すと・・・
C D 楽譜 に や	「ピアノソナタ」と印刷されている	探せます	探せます
	「Klaviersonate」と印刷されている	探せます	探せません！
	「piano sonatas」と印刷されている	探せます	
	もっとほかの形で印刷されている	探せます	

入力する順番は以下の通りです。このような探し方をするタイトルを **楽曲形式** といいます。

「**楽曲形式 楽器名 番号**」 例：Sonatas piano no 14

楽器が変わっても、増えても、曲の形式が変わっても、並び方のパターンは同じです。「etudes piano」「suites clarinet piano」のようになります。*その作曲家はその形式の曲を1つしか作曲していなければ、楽曲形式を単数形にします。

なお、「月光」のように通称のある曲は、それで探せる場合もあります。**作品番号** がわかっているならば、それでも探せます。いろいろ試してみましょう。

2. イタリア歌曲集などの、中声用を探すには

楽器編成やジャンルから探せる検索項目 **件名** に、以下のように入力します。

件名	medium voice	フレーズ
----	--------------	------

これで「Songs (medium voice) with <伴奏楽器名>」（歌曲（中声・<伴奏楽器名>））という **件名** がついているものを探せます。高声用なら「high voice」（高声）、低声用なら「low voice」（低声）です。

ほかに、**注記** で探せる場合もあります。資料に書いてある形で探すので、日本の資料ならば「中声用」、ドイツのならばドイツ語で「Mittlere Stimme」としましょう。

3. **版の楽譜を探したい

これは、**の意味を考えて探しましょう。

**が楽譜にかかわった人の名前なら……

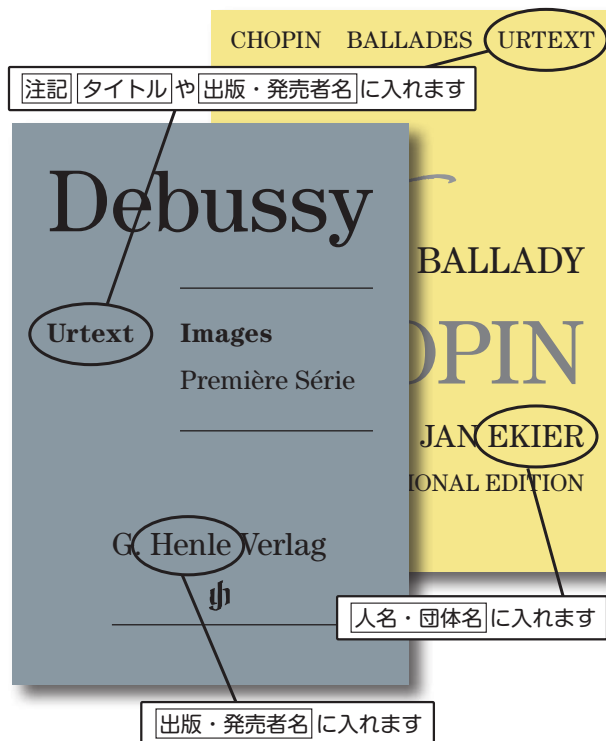
人名・団体名を使います。コルトー版なら「cortot」「コルトー」、エキエル版なら「ekier」「エキエル」と入力します。

**が出版社の名前なら……

出版・発売者名に入れて探します。外国で出版されたものはそれぞれの言語で入力して、<フレーズ検索>にします。ヘンレ版は「henle」、ペータース版は「peters」です。

**がどちらでもない場合は……

いろいろな方法を試みましょう。「原典版」「urtext」など、探している版の名前を**注記** **タイトル**や**出版・発売者名**に入れて探するのが一般的です。



4. ファクシミリを見たい

とりあえずファクシミリをたくさん探すには、この方法が便利です。

件名	facsimiles	フレーズ
----	------------	------

ファクシミリとは、楽譜や原稿などを複製して出版したもので、例えば作曲家の自筆譜を見たいときに使います。楽譜のファクシミリには「Music-Manuscripts-Facsimiles」（楽譜-手稿-複製）、特定の作曲家の自筆のファクシミリには「<作曲者名>-Manuscripts-Facsimiles」という**件名**がついています。

実際に探すときは、これに作曲者名などを掛け合わせましょう。残念ながら「ファクシミリ」「自筆譜」などの言葉では探せません。

5. 図形楽譜を探したい

変わった書き方の楽譜ですね。このような方法で探せます。

注記	図形記譜法	フレーズ
----	-------	------

注記	graphic notation	フレーズ
----	------------------	------

結果はそれぞれ違うので、両方を試みましょう。

※**注記**とは、その資料に特筆すべき事柄を、図書館のデータ作成者が適宜判断して記入したものです。

いかがですか。ほか、OPAC端末の横にあるマニュアルやOPAC画面のヘルプ、ホームページにある「使い方ガイド」(PDF)なども見てみてください。

もちろん、一人で探せているか不安になったら、いつでもカウンターに声をかけてください。一緒にお探します。

図書館にはたくさんの資料があります。ぜひいろいろ使ってみてください。